

vol.10 壕の中で発行された新聞

活字

「まいコレ」では、収蔵庫に眠るイチ押し
の出土品を、月替わりでご紹介します。

今月は10月15日からの新聞週間にちなみ、
首里城内の壕跡から出土した活字です。

■ 出土地：留魂壕跡（那覇市首里）

留魂壕は、1945（昭和20）年初旬に首里城の東のアザナ*1の
下に構築された壕です。沖縄師範学校の生徒と職員が、自らの
避難のために掘削しました。その東側の坑道を沖縄新報社*2
が師範学校より譲り受け、第32軍司令部が南部撤退する5月下旬
まで、狭い壕内で約30人の社員が新聞を発行していました。

この活字は、壕の前面及び内部から見つかったもので、約100
個出土しています。アルミまたはジュラルミン製で2～10mm
四方のサイズがあり、劣化して文字が判読できないものがほと
んどですが、「戦」「斬」などの文字ははっきりと残っています。



留魂壕跡実測図



発掘調査状況（平成24・25年度）

* 東のアザナ … 標高120mに位置する、遠くを見渡すための物見台。

* 沖縄新報社 … 一県一紙の新聞統制により、1940（昭和15）年に地元三紙を統合してできた新聞社。